

健康統計の基礎 第12回（演習）配布資料

今回は、テキストの「第12章 対応のある平均の差の検定」（176～185ページ）について学習します。

表計算ソフト「Excel 2016」「Excel 2019」などを使って、推測統計学の手法のひとつである、仮説検定について演習をします。

テキスト

- 石村貞夫・劉晨・石村友二郎(2019)『Excelでやさしく学ぶ統計解析2019』東京図書.

今回の内容

演習

演習では、テキストの次の内容に取り組みます。ただし、[項目ごとに指示](#)がありますので、それにしたがって演習をすすめてください。

- 12.1 対応のある母平均の差の検定(179～183ページ)
- 12.2 分析ツールの利用法(184～185ページ)

今回の課題

- 課題: [対応のある平均の差の検定](#)

演習の内容

使用するファイルのダウンロード

今回の演習で使用するファイルを、Moodleの授業のページからダウンロードして、自分のパソコンに保存します。

1. Moodleにある授業のページにアクセスする
2. 「第12回」の「**演習 ファイル(ダウンロードしてパソコンに保存)**」をクリックする
3. 「名前を付けて保存」ボタンでファイルを保存した後、ファイルを開く

ダウンロードしたファイルを開いて、ウィンドウ上部の「**編集を有効にする**」をクリックして、演習をすすめます。

12.1 対応のある母平均の差の検定 (179～183ページ)

有意水準 5%で両側検定をする (179～183ページ)

テキストの179～183ページまでの説明にしたがって、有意水準5% ($\alpha=0.05$) で両側検定をしますが、次に指示をする箇所については、テキストの説明を読み替えて操作してください。

- 179ページ: 手順1
 - 文字はあらかじめ入力済みなので、入力する必要はない
- 181ページ: 手順4
 - 次のようにして、COUNT関数を使って、G2セルに体重の差のデータ数を計算
 1. G2セルをクリックして選択
 2. 「数式」タブの「関数の挿入」をクリック
 3. 「関数の挿入」で、関数の分類に「統計」を選択し、「COUNT」を選択して「OK」をクリック
 4. 「数値1」の欄に「D2:D11」を指定して「OK」をクリック
 - AVERAGE関数を使って、G4セルに体重の差の標本平均 \bar{x} を計算
- 181ページ: 手順5
 - VAR.S関数を使って、G6セルに体重の差の標本分散 s^2 を計算
- 182ページ: 手順6
 - G8セルに次の計算式を入力して、検定統計量を計算 (ABS関数で絶対値をとるので、正の値になる)

```
=ABS(G4)/(G6/G2)^0.5  
^^^^ ^    ^^      テキストとの違い (^の箇所) に注意すること!
```

- 182ページ: 手順7
 - G11セルに、確率「0.05」を入力
 - G12セルに、T.INV.2T関数を使って、t分布の値(t値)を求める
 - 引数の「確率」の入力欄は「G11」セルを指定
 - 引数の「自由度」の入力欄は「G2-1」と入力
 - G15セルに次の計算式を入力して、検定統計量が棄却域に含まれるかどうかの判別を表示させる (検定統計量 棄却限界なら「含まれる」、そうでない「含まれない」と表示)

```
=IF(G8>=G12,"含まれる","含まれない")    IF関数を使用
```

さらに、検定の結果を文章としてまとめましょう。

G15セルの結果から判断して、G16セルに「変化している」のか「変化していない」とはいえない」のか、検定の結果を入力してください。

有意水準 1%で両側検定をする

有意水準5% ($\alpha=0.05$)での両側検定の求め方を参考に、次のセルに計算をして、有意水準1% ($\alpha=0.01$)で両側検定を求めてください。

- J11セル: 「0.01」と入力
- J12セルに、T.INV.2T関数を使って、*t*分布の値(*t*値)を求める
 - 引数の「確率」の入力欄は「J11」、「自由度」の入力欄は「G2-1」とする
- J15セル: IF関数を使って、検定統計量(G8)と棄却限界(J12)を比較して、検定統計量が棄却域に含まれるかどうかの判別を表示
- J16セル: J15セルの結果から、「変化している」のか「変化していない」とはいえない」のか、検定の結果を入力

シートの切り替え

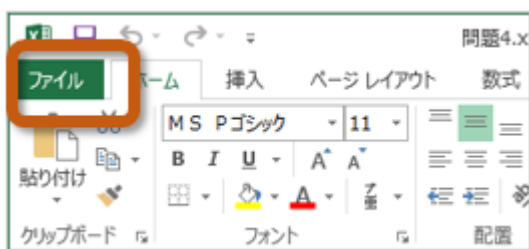
ここまでの演習ができたら、使用するシート(ワークシート)を切り替えてください。

1. ウィンドウ左下の「12.2」をクリック
2. 表示されるシートが切り替わる

12.2 分析ツールの利用法 (184 ~ 185ページ)

まず、次のように操作して、分析ツールを読み込みます。

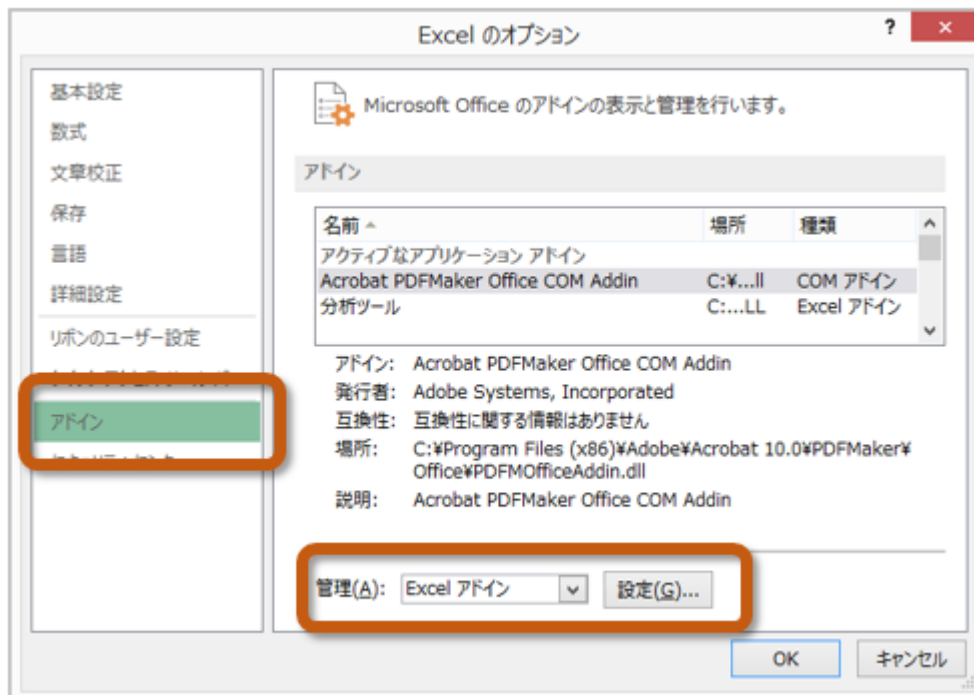
1. 「ファイル」タブをクリック



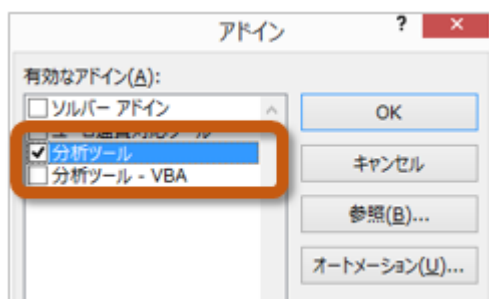
2. 左側のメニューから「オプション」を選択



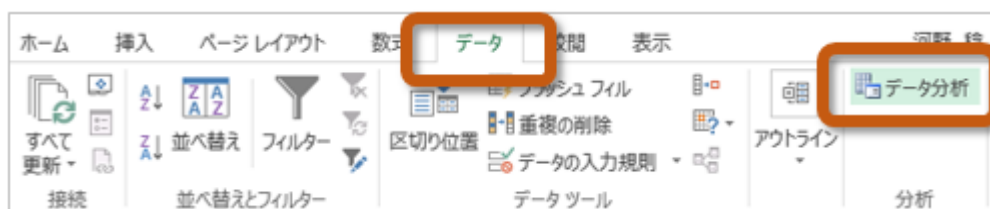
3. 「Excelのオプション」ウィンドウの左側から「アドイン」を選択し、「管理(A)」を「Excelアドイン」に設定した後、「設定」ボタンをクリック



4. 「アドイン」ウィンドウの「分析ツール」をクリックしてチェックをしたら、「OK」ボタンをクリック



5. 分析ツールを使うときは、「データ」タブにある「分析ツール」をクリック



分析ツールを読み込めたら、テキストの184～185ページまでの操作をして、「t検定：一対の標本による平均の検定」を求めて、テキスト185ページの結果と一致するかを確かめてください。

操作ができれば、さらに次のようにして、新しくできたシートの名前を変更してください。

1. 新しくできたシート(「Sheet～」ではじまる名前)の名前を右クリック
2. メニューから「名前の変更」を選択
3. シートの名前が入力できるので、「分析ツールの結果」と変更して「Enter」キーを押す

第12回の課題：対応のある平均の差の検定

課題の内容

今回の課題では、テキストの218～219ページにある「問題12」に取り組んでください。

「課題」というワークシートにデータがありますので、対応のある母集団の平均値の差の検定を、次の指示にしたがって行ってください。

両側検定（有意水準 $\alpha=0.05$ の場合）

演習でやったことを参考に、次のセルに入力・計算をして、有意水準5%（ $\alpha=0.05$ ）で、両側検定をしてください。

- D2～D16セルに、栄養管理実施前と実施後の脂肪厚のデータの差を求める
- G1セルに脂肪厚のデータの差(D2～D16セル)のデータ数を求める
- G2セルに脂肪厚のデータの差の標本平均を求める
- G3セルに脂肪厚のデータの差の標本分散を求める
- G5セルに検定統計量を求める
- G8セルに「0.05」と入力
- G9セルに、有意水準5%で両側検定の棄却限界を求める
- G12セルに、IF関数を使って、検定統計量が棄却域に含まれるの判断を表示させる
(検定統計量 棄却限界なら「含まれる」、そうでない「含まれない」と表示)
- G13セルに、検定の結果から、栄養管理実施前後で脂肪厚は「変化する」のか「変化しない」のか判断して、どちらかを入力

両側検定（有意水準 $\alpha=0.01$ の場合）

演習でやったことを参考に、次のセルに入力・計算をして、有意水準1%（ $\alpha=0.01$ ）で、両側検定をしてください。

- J8セルに「0.01」と入力
- J9セルに、有意水準5%で両側検定の棄却限界を求める
- J12セルに、IF関数を使って、検定統計量が棄却域に含まれるの判断を表示させる
(検定統計量 棄却限界なら「含まれる」、そうでない「含まれない」と表示)
- J13セルに、検定の結果から、栄養管理実施前後で脂肪厚は「変化する」のか「変化しない」のか判断して、どちらかを入力

課題の提出方法

ファイルの保存

課題が完成したら、ファイルを上書き保存してください。

まだファイル名を変更していない場合は、次のようにしてください。

1. 「ファイル」タブをクリックして、「名前を付けて保存」を選択
2. 保存する場所に「このPC」を選択した後、「参照」をクリック
3. ファイルを保存したいフォルダを選択
4. ファイル名に「0728b」+「学籍番号」+「.xlsx」を設定(半角文字で)

◦例:学籍番号がH2191000の場合、ファイル名は「0728bh2191000.xlsx」

課題の提出

保存できたら、Moodleの授業のコースにある提出先へアップロードして、課題を提出します。

1. 「第12回の課題」をクリック
2. 「提出物をアップロード・入力する」ボタンをクリック
3. 「ファイル提出」の中にある「ここにドラッグ&ドロップして...(省略)」という場所に、ファイルをドラック&ドロップ

4. ファイルが登録されたら、「変更を保存する」ボタンをクリックすれば、提出完了！
(それ以降は修正できなくなるので注意すること)

課題の期限

期限をすぎると、提出できなくなる場合がありますので、注意してください。

- 提出期限：2020年8月11日(火) 14:40まで